

—カワウの被害が減っていく—

計画が導く 確かな管理へ

「特定鳥獣保護管理計画作成のための
ガイドライン及び保護管理の手引き
(カワウ編)」を読む方へ



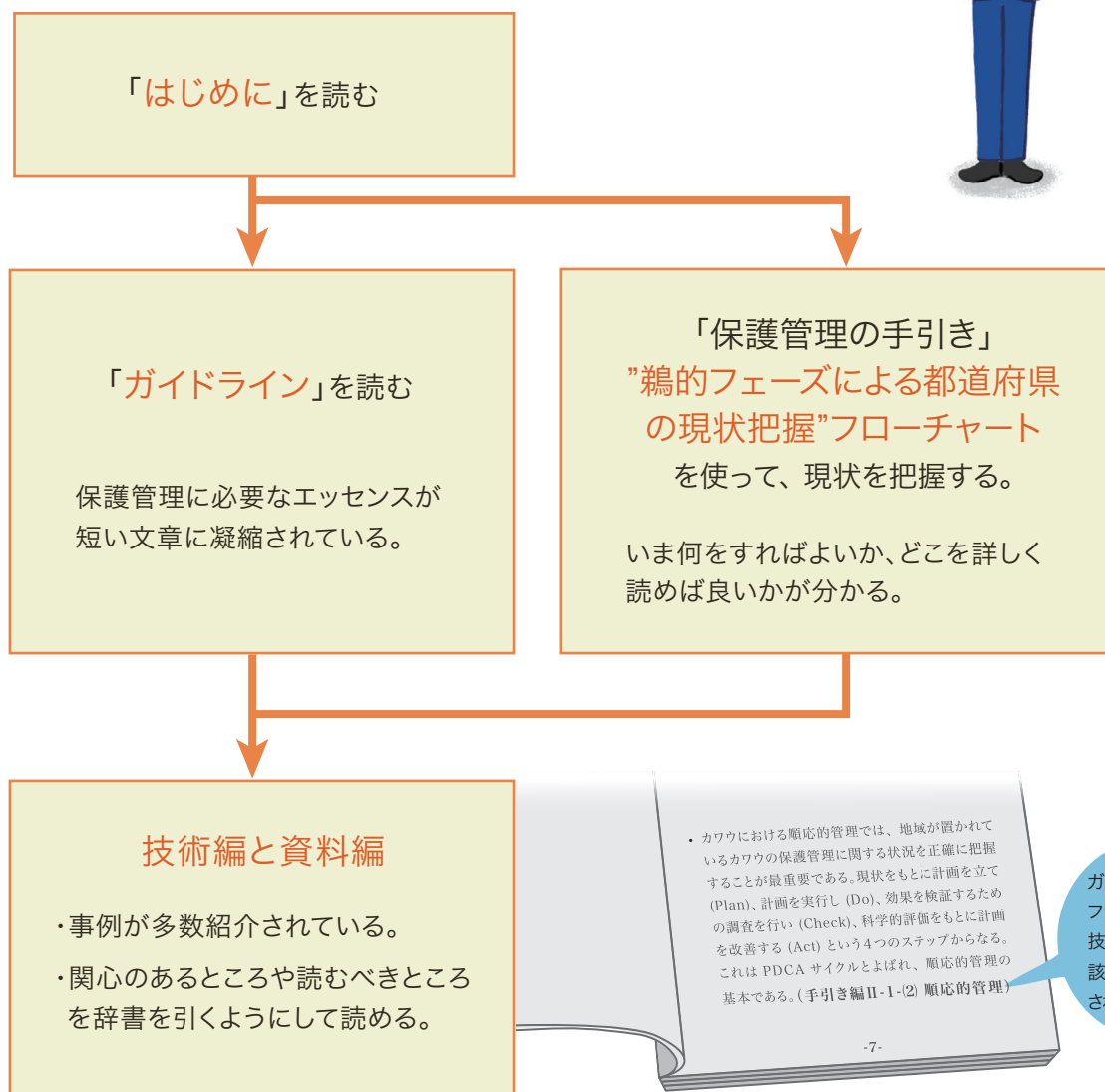
「ガイドライン及び保護管理の手引き(カワウ編)」は

ここがポイント

- 「ガイドライン」と「保護管理の手引き」の2部構成で、カワウの保護管理の全体像が掴みやすい!
- フローチャートの導入と解説により「いまやるべきことは何か?」がわかりやすい!
- 個体群管理の考え方とノウハウが詳しい!
- カワウの管理のために必要な知識を、順を追って理解できる工夫がされている!

「ガイドライン及び保護管理の手引き(カワウ編)」の

かしこい読み方



計画的な管理が被害を減らす

担当者が志と覚悟を持って取り組めば、必ず被害は減っていきます。

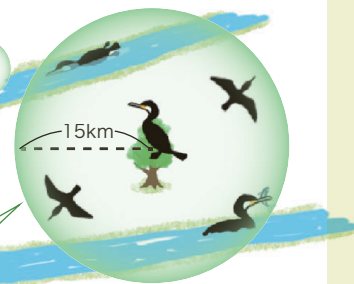
Before

計画的に管理する前



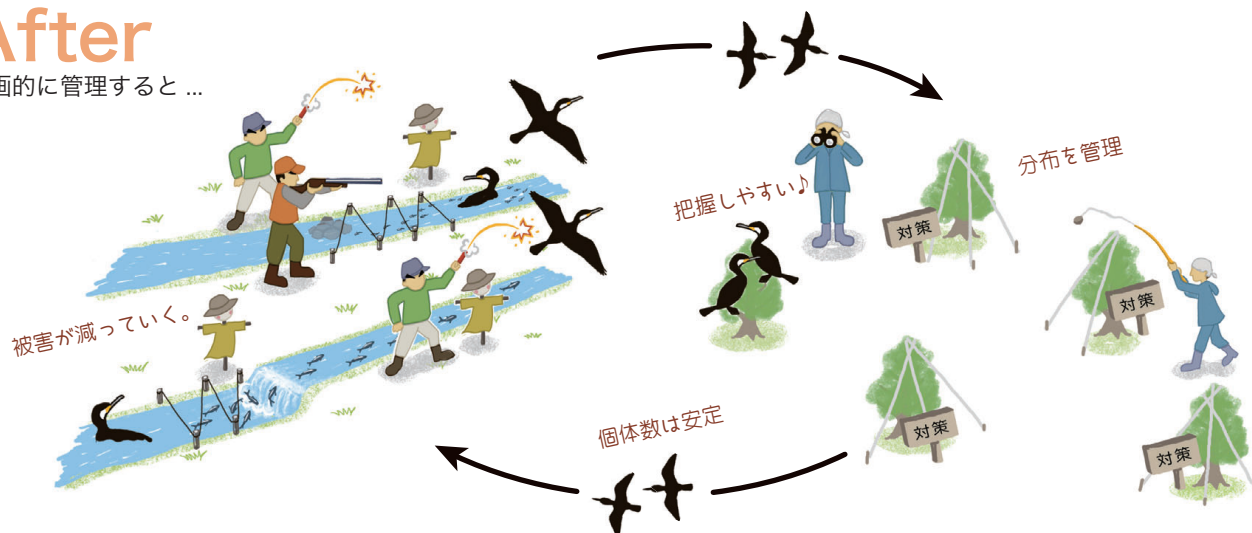
●管理計画を作らしましょう!●

- ・まずは地図づくり → 現状を俯瞰する。
- ・専門家のアドバイスを受ける。
- ・持続可能な管理体制を作る。
- ・管理目標は「どこの被害を、どれくらいに減らすか?」で考える。
- ・カワウの管理は計画的・順応的に取り組む。
- ・個体群管理に、被害防除対策と生息環境管理を組み合わせる。
- ・情報を収集し、各地の成功事例や失敗事例に学ぶ。



After

計画的に管理すると...





「はじめに」より抜粋

「・・・飛来するカワウを銃器で撃つだけで問題は解決しない。このことは、多くの失敗事例が物語っている。**急がば回れ**である。冷静に被害状況を把握し、持続可能な体制とカワウを管理するための計画を作ることが先決である。」

「古来よりカワウは日本に暮らす在来種であるため、撲滅や駆逐ではなく**「ほどほどにいること」を目指す**ことが大前提となる。つまりカワウ問題解決のゴールは、ヒトとカワウの平和的共存を実現することにある。」

つまり....

計画を作ると、関係者の理解が進み、カワウ対策が進めやすくなります。また、目標が明確になるとともに、関係者の連携がしやすくなります。

つまり.....

カワウを放任せず、関係者が被害を許容できる状態にすることがまず必要です。そのためには、カワウがどこに、いつ飛来すると困るのかを明らかにし、被害への影響が大きいところから重点的に手を打っていくことが、ゴールへの近道です。

「ガイドライン」の概要

保護管理に欠かせない最低限の知見と保護管理の指針が記載されています。

1. カワウの特性

カワウという鳥についてや、その管理の現状を知ることで、効果的な管理につなげるための基本的な情報が記載されています。

2. カワウの保護管理の基本的な考え方

(1) 保護管理の考え方と進め方

保護管理を進める際の重要なポイントである順応的管理について記載されています。まずカワウによる被害について理解することが、目標設定のために必要です。

(2) 順応的管理

(3) 保護管理手法

個体群管理・被害防除対策・生息環境管理の位置づけと、それぞれの管理の考え方、実施上の注意点が記載されています。

(4) 体制整備と広域保護管理

広域管理を実施するにあたって重要な「都道府県内での広域管理の視点」と「都道府県境界を越えた広域管理の視点」について、それぞれ記載されています。

(5) 対話・教育・参加・啓発活動

長期的な視点でカワウの管理を考えていく上で重要な、普及啓発活動について記載されています。



I 鵜的フェーズによる都道府県の状況把握

～今やるべきことは何か?を知るためのフローチャート～

都道府県のおかれている状況をフェーズ1～6までわかりやすく診断し、行うべき方向性や対策へつなげていきます。

①

ねぐらやコロニーの位置と個体数を把握できているか?

フェーズ1

できていなければ、調査しましょう!

②

被害状況を把握できているか?

フェーズ2

できていなければ、既存の情報を収集しモニタリング体制を整えましょう!

③

被害状況や被害軽減対策について話し合う場があるか?

フェーズ3

話し合う場がなければ、現場が本当に求めている政策も、関係者間の合意形成もできません。盛大にやる必要はありません、継続的に集まれることが大切です。

④

カワウの管理計画は作ってあるか?

フェーズ4

管理計画がなければ、作りましょう。水産行政担当者が作っても構いません。



カワウの対策は、被害が大きくなってから取り組むよりも、被害が小さいうちに先手を打って取り組んでおいたほうが、少ないコストで効果を発揮することができます。

フェーズは順番に進めなければいけないものではないので、できることから取り組みましょう。





II 技術編

計画の作り方や調査や管理の手法についての疑問に答えます！

カワウの管理体制ってどうすればいい？
市町村が担うべき役割とは？
順応的管理 (PDCAサイクル) とは？
広域協議会の指針と特定計画の関係は？

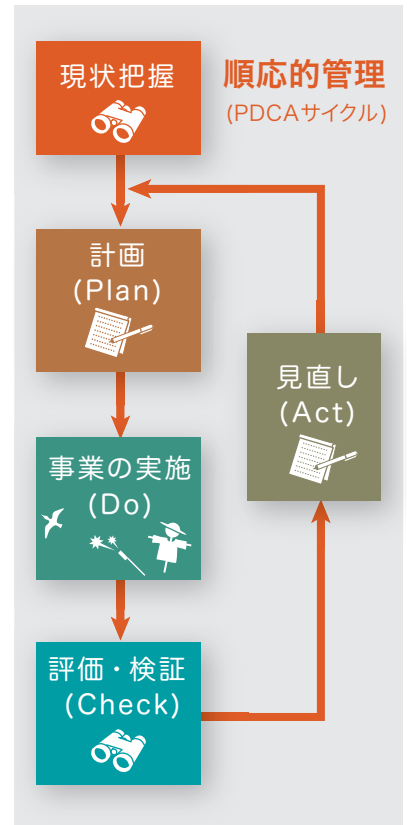
「計画の作成」
の節を読もう！

カワウの個体数はどう調べる？
被害量の算出方法は？

「調査手法の技術指針」
の節を読もう！

カワウの生態にあった管理手法は？
個体群管理・防除対策・生息環境管理は
どう扱えばいい？

「管理手法の技術指針」
の節を読もう！



III 資料編

もっと詳しく知りたい、という人のための知識と、事例集をまとめてあります。

カワウの生態や行動をもっと知りたい！
被害が発生する背景や現状を知りたい！
海外での広域管理の事例を知りたい！

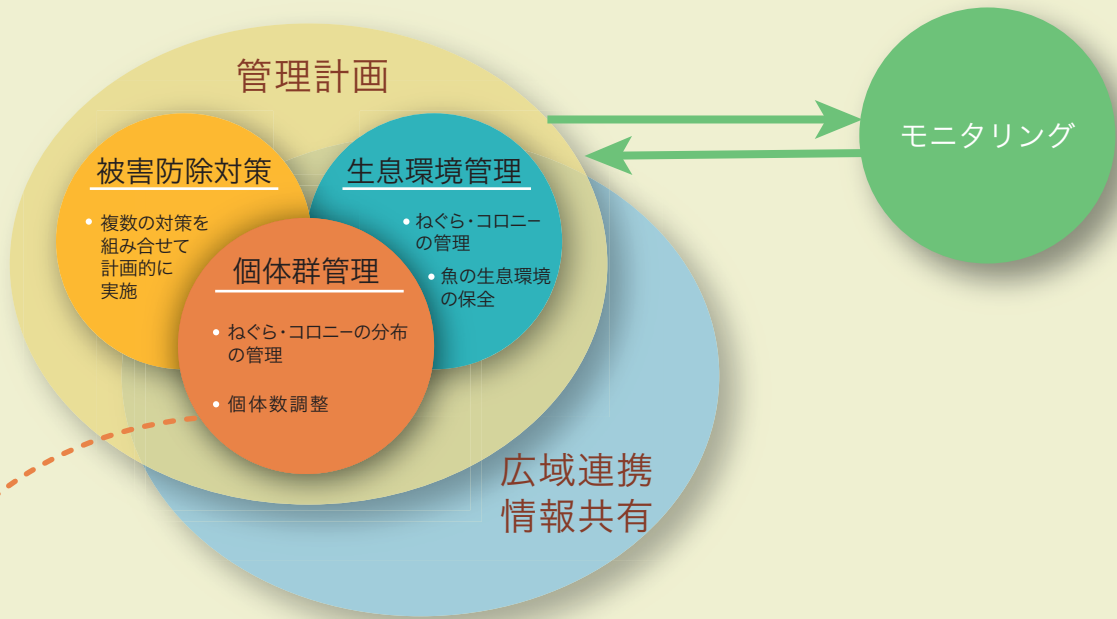
「カワウや社会的背景の理解」
の節を読もう！

あの県の管理は、どう進められてきたの？
県全体の管理のイメージが湧かない！

「事例集」
の節を読もう！



● 管理計画の全体像 ●



Pick up!

個体群管理は、状況によって適した管理が異なります。

個体群管理が有効な状況		対策とその理由	
被害地から15km以内に ねぐらや小規模なコロニー がある	地域の状況 他のねぐらやコロニーがない または少ない地域	ねぐらやコロニーの状況 個体数がまだ少なく新しい ねぐら	除去 放っておくとカワウの生息状況が把握しにくくなる。カワウが新しい餌場を利用し始め、個体数が増えてしまう。
	春～夏に個体数が少なく、まだ大規模なコロニーがない地域	営巣数がまだ少ないコロニー	コロニー化を防止 繁殖し始めると春から夏の個体数が増えてしまう。
被害地から15km以内に 大規模なコロニーがある	カワウの繁殖期と重なる時期に 甚大な漁業被害がある		ドライアイスや擬卵で繁殖抑制 ヒナを育て始めるとさらに多くの餌をとるため、被害が拡大する。
	大規模なコロニーが存在し、 大規模な個体群管理が必要なほど 甚大な被害があり、かつ 管理計画を作っている		専門的・職能的捕獲技術者による 銃器捕獲 個体数調整のためには、計画的かつ効率的にカワウを捕獲する必要がある。



個体群管理に取り組む際は、県全体のカワウの生息状況や被害状況を把握し、継続的にモニタリングができる体制を作ります。専門家のアドバイスと管理計画の作成が欠かせません。

カワウの保護管理に関する情報は、こちら。

カワウ保護管理ポータルサイト

<http://www.biodic.go.jp/kawau/index.html>



ーカワウの被害が減っていくー
計画が導く確かな管理へ

「特定鳥獣保護管理計画作成のための
ガイドライン及び保護管理の手引き
(カワウ編)」を読む方へ

2013年(平成25年)10月

発行者：環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室
業務請負者：一般財団法人自然環境研究センター
共同事業実施者：特定非営利活動法人バードリサーチ
(平成25年度特定鳥獣に係る保護管理施策推進のための対応等調査・検討業務)
デザイン・イラスト：いきものパレット

